

仏法領

ぶつぽうりょう

第99号

発行：真宗大谷派

念信寺

〒824-0202

福岡県京都郡みやこ町犀川上高屋761

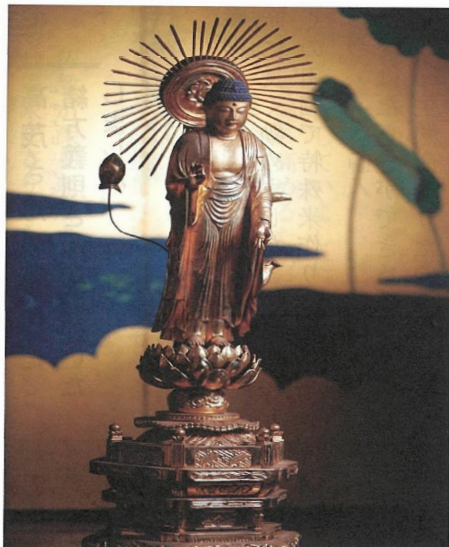
☎ 0930-42-0329

Fax 0930-42-0502

ホームページ

nenshinji.org

上高屋より犀川谷を臨む



下高屋より上高屋を臨む、正面蔵持山



「思わぬこと」

災害がおきたら

私は心を乱し

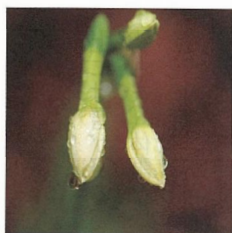
自分のことだけで
精一杯になるだろう

そんな時こそ

私にできる何かを探したい
すこしでも家族のため
地域のためにできることを

そんな時こそ

生きざまを追い求めたい



(写真・文 大迫光浩)



災害、思わぬ出来事に出遭った時 人はどのように生きてゆくのか

季節は巡る、春は生命が生き生きと芽吹く自然の逞しさを
感じさせる。

二〇一一年3月11日の東日本大震災より14年経つ。多くの
いのちが奪われた。家族、知人、故郷を失うとはどういうこ
とだろう。

『福島季評』(朝日新聞、2025.3.6安東暁子)の文章によって、
故郷を失うということは自分の基盤を失うことだと教えられ
た。風土、住まい、家族、知人、全てが自分の一部としてな
じんでいた。それを失った時、自分が何者であるのかを支え
る基盤、大地を失ったということなのである。

そこから人はどのように立ち上がってゆくのか。福島在住、
禅宗の僧侶・作家の玄侑宗久師は東日本大震災に遭遇した経
験からどう立ち上がるかを考えた時、「無常」という言葉が想
われたという。「同じことは二度と起こらない。だから事実を
受け入れ、その時々で出てくる知恵を信じよう」ということ
だと師は受けとめている。

現実に迷った時、基本原理から考えることが大切なことであ
ろう。「無常」とは仏教の根本原理である「三法印」の教え
である。三法印とは「諸行無常」、「諸法無我」、「涅槃寂静」
である。すべては移り変わる、存在に実体はない執着するな、
涅槃・さとりは平安である、ということ。

こうなつて欲しい、そうなりたくないという思いにとらわ
れて、自分の欲に執着し固執している。その自分さえ幻のよ
うに実体のないものなのだ。その迷いを超えよということだ
ろうか。

しかしながら、私は固執し迷う心を離れることができない。
だからこそ、三法印の原理、羅針盤が大事なのだ。三法印は
自分の執着を迷いだとし、本当のことは安心を与えると教
えている。

それでは、亡き人をどう受けとめたらよいのか。お浄土か
ら仏さまとなつてはたらくのだと教えられている。亡き人は
私に先だつてお浄土、真如の世界に帰り、さらに今現に呼び
かけ導くはたらきとなつていと受けとめられる。





新総代の紹介

上高屋地区・総代の
MTさんの後任に
OYさんが就任いた
しました。

OYさんは昭和24年6月生まれ、宇部興産に長く勤めました。現在は10町歩近くの田圃で特殊米作りに励んでおられます。



「十分なはたらきができるか分からないけど、一生懸命やりたいと思うので、宜しくお願いします」とのご本人の弁。

長距離レースに出場して活躍していたことから、粘り強く努力してくださるのでないかと思えます。ただ会社勤めと稲作に長く頑張ってきたので、体力的にあまり無理はなさらないようにと念じます。

突然の出来事で思うこと

YA

(北九州市小倉北区)



最近では火災、風水害、地震・津波等の自然災害、また通り魔殺人の人災等、予期せぬ災害事故に見舞われたニュースを多く目にする。見る側の私達は、「お気の毒に、何とか支援出来ないものか等」と思うばかりであるが、災害・事故にあわれた方々の思いは、私達には計り知れない程の事と思う。「神も仏も無いのかと思

った」と被災者の方が話をされていた事を思い出す。不謹慎ではあるが、その時「自分ではなくて良かった」と思う私がいた。身勝手な私である。

そうした境遇に置かれた場合、どうすべきだろうか？私は二十代で父を、三十代で妹を、六十代で母を亡くした。流石に父を亡くした時は私も若く、父を亡くした悲しみより、四人家族のこれから生活の事が一番の心配であった。家族の死は病気等である程度覚悟をしていた事もあり、何とか乗り切れたが、災害・事故等の場合は予期せぬ事で、家族の死を簡単に克服出来る事ではないし、永遠に忘れる事は出来ない事である。

他方、家族、知人等の死とは異なった事がある。突然、自然災害により家屋、家財などが失われた場合はどうであろう。自然災害で全てを失い、その場に呆然と立ち尽くす人達を見た時、「気の毒に」と思うだけの無力な自分がいた。しかし、当事者の人達は数年後には驚く程の気力で復興に取り組んでいる。人は逆境に立った時、言葉では言えない程の力を発揮するのであろう。生きる為には。



本堂大屋根修復 状況

世話人の居ない門徒さんへのアンケートを行っています。「できるだけ対面してお願いしているため、回収に手間取っていますが、時間がかかりすぎるため、郵送もやむを得ないと考えています。」

お参りの日々

村上 宣とむら (念信寺若院)



梅の花も咲き誇り、かと思えば、山の上には雪が降る、不安定な時節ですが、皆さま、体調はいかがでしょうか。風邪や花粉症等流行っております。どうかお気をつけ下さい。



思わぬ出来事とは、身構えているときには来ないもので、去年元日の「石川県能登半島地震」などは記憶に新しいものと思えます。現在も復興の状況はなかなか進まず、やはり「地理的孤立」というのが大きな課題となつていっている様です。常日頃からの警戒や対策、

注意が必要とはよく報道されてはいますが、実際のところ、常に対策するというのは難しく、その時その時で対応するほかありません。どうリカバリーをし、周囲が支えていくかが大切なかもしれません。

なぜお墓に参るのか

お墓は何のためにあるのでしょうか。大切な人を埋葬し、弔うということは、私たちにとってごく自然な行為です。しかし、お墓や遺骨に関して、方角や日の善し悪し、作法の正解不正解にとらわれることがあります。

そのようなとらわれは、亡き人を敬っているようで、実は自分の身に起こる都合の悪い事柄を避けたいという思いからきているのではないのでしょうか。

お彼岸、いのちの故郷

お墓はなくなった方へお願いをする場ではありません。亡き人を偲びつつ、自分もいつかはいのちを終えていく身であることを教えられる、大切な人との別れをおして自らの生を考えていく尊い場です。

(真宗大谷派九州教務所ホームページ・アフターケア通信より)

亡くなった人はどこに在るだろうかと聞かれます。仏様の世界におられると答えることにしています。私たちの世界はこの世であり、自分の都合を中心にした良し悪しの迷いの世界。こちらの岸です。

仏様の世界は私達には決して触れることのできない世界、彼岸。真如の領域から迷いの世界に言葉となって呼びかけているのが「ナムアマダブツ」。かろうじて真如に背中合わせに触れるのが、念仏申すということでしょう。

お彼岸で墓園にお参りの方々がおられます。しかし、家の仏壇にも手を合わせているでしょうか。いのちの繋がりがあある親や先祖にお参りはするけれど、亡くなった人が何処へ行ったのか、私は何処へ行くのか、はつきりしていません。現代の私達は、いのちの故郷を見失ってはいないでしょうか。故郷とは、帰る場所。そこから来てそこへ帰るべき場所が故郷です。あなたの本当の故郷、帰る処はどこですか。静かに手を合わせてお念仏申しませんか。



(住職)

コラム

日本のお寺



仏教が日本へ

日本のお寺を紹介するために、歴史的経緯から話を進めます。

日本に仏教が公式に伝わったのは、五三八年、隣国である韓国・百済の聖明王から經典と仏像が贈られたと言われています。無論それ以前から、民間での交流はあったのでしよう。

いずれにせよ、日本は島国ですし、中国などアジア大陸の進んだ文化を受け容れる一環として仏教が国家によって組織的に学ばれ、多くの文物が輸入されました。經典・論書などの書物、仏像や仏具、それらを製作する技術など、文化・制度を含めて何世紀にもわたってです。

日本の歴史の区分である奈良・平安時代の当初の仏教は、「鎮護国家の仏教」と言われています。つまり、天候異常や地震等の災害、病気の流行などがなく、貴族をはじめ民衆も穏やかに生活できて、結果として国家がうまく治まることを祈願する仏教です。奈良には東大寺をはじめ当時を伝えるお寺が多く残されていますが、組織的に仏教や大陸の文化を輸入する官立の大学のような役割を果たしていました。また有力な貴族も一族を護り高めるために、興福寺などの私立の大学のようなお寺を建て優秀な僧侶を招き、後進を育てました。

当時の僧侶は、民衆に接して、積極的に仏教を伝えることは禁止されていたそうです。

しかし、仏教が深く理解されるようになると、苦しむ民衆に寄り添う僧侶が現れる

ようになりました。空也上人などの「聖」と呼ばれる人々です。

民衆への広がり

平安から鎌倉時代にかけては、貴族から武士へと日本の支配体制が大きく変わる変わり目になっています。戦争をはじめ天変地異もおこり、生産体制も壊れ、それまでの価値観が問い直されて社会不安が増大し、人々が大変苦しみました。そのような個人と社会の救いを仏教に求めたのです。「鎌倉新仏教」と言われる仏教の新しい動きが出てきました。祖師となる優れた僧侶・思想家が現れたのです。法然、親鸞、日蓮、道元、栄西などです。

宗派仏教の成立

鎌倉、室町時代を通じて、こ



れらの人々の教えを伝える弟子たちの集団が教団を形成することになります。これらの時代は、民衆が自らの力を社会の中で自覚するようになる過程でもあったのです。

戦国時代を経て徳川幕府が成立すると、強力な支配体制が敷かれ、社会が安定しました。思想・宗教の統制も行われ、お寺と檀家という関係が固定されました。民衆は必ずどこかのお寺の檀家になることが強制されたのです。

それはお寺同士の関係（本末関係）も整理され、さらに教団そのものも幕府に統制されるということでした。つまり、祖師を仰ぐ集団が宗派として成立したことを意味していました。

現在の日本仏教の特徴が「宗派仏教」であると言われるのですが、それは江戸時代に成立したというのが今日ではほぼ定説になっています。

現代とその課題

明治時代は、日本人が世界史のなかで自らの運命を切り開かなければならない時代でした。徳川時代の鎖国政策を棄て、欧米列強の植民地支配がアジア、世界を席卷するなかで、近代国家を樹立するという課題を突きつけられていました。

日本は、当時のプロイセン（ドイツ）を本として天皇を中心とする絶対主義国家を目ざしたと言われています。

民族の枠を超えた強力な一神教（キリスト教）との関係の中で国家を形成するという経験をも日本人は持ちませんでした。そこで天皇を現人神として仰ぐ国家神道を精神的な支柱として国家を形成することを目ざしました。

近代国家としての体裁を整えるために、信教の自由は認めるのだが、それは国家体制の枠組みの中の自由であるという条件がついていました。つまり、国家神道は超宗教の宗教であるという二重構造、ダブルスタンダードをもつことになったのです。例えば、浄土真宗の門徒であると同時に、神道の信徒でもあるということでした。

戦後、戦争責任が曖昧なままにされたと言われますが、十分になされなかったことが、今でも民衆レベルで曖昧なままに、ある意味図的に放置されています。靖国神社も日本が戦争を遂行するための宗教施設として明治時代に作られた、陸海軍省が管轄する宗教施設でした。政治が意図的に宗教を作ったのです。

日本人は宗教に寛容であると、普遍宗教同士の「宗教戦争」と言われるニュースを耳にして、ある意味肯定的に言われます。しかし、そこには落とし穴があります。確かに宗教的な不寛容は問題ですが、その時々で人間が恣意的に宗教を扱えるものだと

いう感覚があるのだとしたら、ある意図のもとに人々を統制できる道具として宗教が利用されることになるのです。宗教の本来の意味を明治以来、学ばずにきたのかも知れません。

太平洋戦争が終わり既に七〇（現在は八〇年）年近くが過ぎました。今日、日本は大きな曲がり角に立っているように思えます。普遍的な宗教は近代的な自我をこえて、いかに生きるかという課題を投げかけているのだということを、戦後の我々はもう少し突きつめて考える必要があるのだと思います。

※今日的に言えば、カルト宗教がその問題を投げかけています。先日は統一教会に東京地裁が解散命令を出しました。

以上は、お寺の現在位置を知るために住職が10年程前に記したものです。

念信寺の歴史

念信寺は戦国時代末期、初代慶悦が宗教的武装勢力であった本願寺と織田信長との決戦である石山合戦に参加したことで、一五八二年に開山され、今日に到っている。

住職の印象に残っている過去帳の記録は、明治初年（1868）小倉藩士族の老人や若い娘が多く亡くなっている記録である。おそらく、小倉藩が慶応2年（1866）8月小倉城に火を放ち、田川郡香春に撤退したことによるので、人々がその時代、時々の荒波をくぐってきたことが思われる。



春のお彼岸法要のご案内

まだまだ朝晩寒い日が続いておりますが、皆さまいかがお過ごしですか？ 春らしい季節の移ろいによろやく元気づけられます。再び巡り会うことの無いわが身にあわせていただきますしよう。

記

一、日時 三月二十九日(土) 三十日(日) 午後一時半より

一、講師 北嶋 文雄 先生

福岡県筑前町 浄土真宗本願寺派 光蓮寺住職
二〇二五年三月 妙見山 念信寺

御正忌報恩講

2024年11月21日22日午後

舟川 宏顕 先生 両徳寺前住職
村上 匡一 23日 念信寺住職



法座予定

二〇二五年

●皆作・永代経法要

七月五日(土)、六日(日)

舟川智也・行橋市両徳寺住職

●秋彼岸法要

九月二十七日(土)、二十八日(日)

瓜生 崇・滋賀 玄照寺住職

(各々講師の敬称略)

●報恩講

十一月二十一(金) 二十二日(日)

講師 未定

お寺の活動



除夜の鐘



1/20 初組会



1/14高田家上仏事、千葉・沖縄、他から



1/28 霧、墨絵の世界



3/9稲田家四十九日上仏事



3/28総代会

2025年真宗本願寺仏教講座

第1回 5/22(木) 「凡夫であることの難しさ」 寺本 温

第2回 6/26(木) 「人はなぜお母いをするのか」 保々 昌福

しんらん からの メッセージ Message from SHINRAN

★ 場 行橋市金鐘所3階 座席は17席あり
時 間 毎週13:00~13:30
参加費 無料 (おなごでもご参加ください)

【主催】真宗本願寺 【協賛】念信寺 【TEL】082-252-0222

これからの人生を親さんと歩んでみませんか

今回の「はじめてのしんらん講座」は、初歩からわかりやすく学ぶことを目標に 行橋・京都府・北九州のお寺とご門が協力して取り組まれます。 わたしたちと一緒に学んでみませんか？

● 仏教のお給仕の仕方や仏教の初歩を知りたい
● さまざまな不安、悩みがある
● 仏教のために立っているのがわからなく、安心と生きる力を失いかけています

※ この講座は、前期講習3回・後期講習2泊3日で完結します。 期日・費用に関しては以下のとおりです。

期日	費用
第1期 2025年 6月25日(水)	50,000円程度 (宿泊費、昼食のみ)
第2期 2025年 7月2日(水)	13,000~17,000
第3期 2025年 7月16日(水)	浄喜寺 行橋市井ノ口2
その他	全3回 1,000円

お申し込みは、お問合わせは所属の住職までお願いします。(申し込み締め切り 2025年5月末)

氏名	所属
住所	
お電話	生年月日

はじめての しんらん 講座

「これからの人生を 親さんと歩んでみませんか？」

主催 真宗大谷派九州教区京都組

寺報が法座に間に合わず、すっかり遅くなってしまいました。今回のテーマは「思わぬ出来事に遭ったとき、人はどのように生きてゆくか」でした。仏教が教えるのは、いのちは縦と横の軸で成り立っている。縦軸は私になるまでの先祖からの繋がり、横軸は例えば一杯のお茶になるまでの人々の営み、自然の恵み、品種改良・・・他の多くの命を頂いていることを受けると、いのちは私のもので、大きな繋がりのいのちだと繰り返し思い返すことの大事さが分かります。

あとがき



個人壇加入者募集 (12万円から、5年間の管理費込み・何体か収骨可能です) * 一時預かりもできます。ご相談下さい。

念信寺納骨堂

同朋のつどい

講演テーマ 寺を開く-公性の回復

◆日時 4月30日(水) 12:30 受付 13:00開会~ 16:00閉会

◆会場 行橋市今井 浄喜寺

◆講師 秦信映師(京都教区)

どなたでも参加できます!